

令和7年度 第25回 (地理歴史科・公民科) 課題追究学習作品展 (報告)

令和7年10月

1 作品展・表彰式について

- (1) 作品展：10月18日(土)～10月19日(日)
- (2) 表彰式：10月19日(日)
- (3) 場 所：岐阜県総合教育センター
 - ・最優秀賞、優秀賞受賞者について、賞状及びトロフィーを授与した。
 - ・入選の25名については、当該校を通して賞状を渡した。
 - ・入賞者全員に副賞を渡した。



2 応募作品について

(1) 応募・取組状況

	応募作品数				取組作品総数			
	小学校	中学校	高校	合 計	小学校	中学校	高校	合 計
R7	696	116	0	812	2,364	472	0	2,836

(2) 作品の傾向

<全体の傾向> ・地域のくらしや社会の動きに目を向け、自分なりの問いをもち、粘り強く調べ、考えを深めることができていた。 ・テーマ設定の理由を明確にし、追究の見通しをもって取り組むとともに、自分の考えを整理し、社会への提案や自らの行動につなげようとする作品が多く見られた。
<小学校低学年、中学年> ・身近な生活や地域の中で「どうしてだろう」「もっと知りたい」という疑問から、課題を見つけて追究する姿がよく表れていた。 ・調べるときには、実際に現地を訪れたり、地域の人に話を聞いたりするなど、自分の足で確かめる工夫が見られた。 ・学んだことを基に「自分にできること」を考えており、地域社会の一員としての自覚が育っていることがよく伝わってきた。
<小学校高学年> ・社会科の授業やニュースなどを通して、興味・関心や問題意識をもち、より深く追究していた。 ・調べたことを文章に表すだけでなく、地図やポスターなどにまとめており、相手意識を大切にしながら大変分かりやすい作品が多く見られた。 ・複数の立場や意見を踏まえて、「どうすればよい社会になるのか」を考え、提案しようとしており、社会参画の基礎を養うことができていた。
<中学校> ・環境保全や防災の取組、物価高対策など、現代社会の重要な課題に向き合い、解決の方向を模索する姿勢が見られた。 ・自分の力で計画的かつ継続的に追究することができており、その過程で課題意識が持続・発展していた。 ・事実を客観的に捉え、公正に判断しながら、自分の考えを説明、論述しており、社会の形成者としての意識の高まりを感じた。

【表彰式の様子】

